

第13回 九州核医学研究会

日 時：昭和53年2月18日（土）

会 場：長崎大学医学部附属病院臨床大講義室

会 長：本 保 善一郎

目 次

- | | | |
|--|--------|-----|
| 1. 宮崎医科大学の核医学検査システム | 渡辺 克司他 | 629 |
| 2. ガンマカメライメージングにおける適正コリメーターの検討 | 松本 政典他 | 629 |
| 3. RI用ラピッド・カメラについて | 菅 和夫他 | 630 |
| 4. T ₄ PEG RiapacによるThyroxinの測定 | 吉井 弘文他 | 630 |
| 5. 血中サイロキシン測定用kit SPAC-T ₄ の検討 | 岩崎 宏司他 | 630 |
| 6. CEAの経験（第2報） | 松岡順之介他 | 630 |
| 7. ^{99m} Tc-MDPによる悪性腫瘍骨転移の検索 | 池田征一郎他 | 631 |
| 8. 放射線照射の骨成長過程に及ぼす影響の実験的研究 | 境 康彦他 | 631 |
| 9. ²⁰¹ Tl-chlorideによる腫瘍シンチグラフィー— ⁶⁷ Ga-citrateとの比較検討 | 坂田 博道他 | 631 |
| 10. ^{99m} TcO ₄ ⁻ による甲状腺イメージングでの食道影について | 山下 正人他 | 632 |
| 11. ¹³¹ I-Adosterolによるarrhenoblastomaの陽性描画の経験について | 中條 政敬他 | 632 |
| 12. 閉塞性黄疸の肝シンチグラムについて | 広田 嘉久他 | 632 |
| 13. シンチカメラ簡易データ処理装置—EDR-42の使用経験 | 今泉 美治他 | 633 |

一 般 演 題

1. 宮崎医科大学の核医学検査システム

渡辺 克司 一矢 有一
中野 太右
(宮医大・放)

昭和52年11月に当大学病院が開院されて約2カ月が経過した。放射線部 RI部門は技師が1名、非常勤職員2名と放射線科医の人員構成で運営されている。装置はシンチカメラ2台を中心として、シンチスキャナー2台、RIAトータルシステム2台(分注器は1台)である。2台のシンチカメラにデータ処理装置としてシンチパック1200を接続し、各種動態機能検査を容易に行い得るようにした。
in vivo, in vitro の両方を小人数にて円滑に行うため、雑務の軽減化に努力した。

2. ガンマカメライメージングにおける適正コリメーターの検討

松本 政典 金子 輝夫
藤村 憲治 片山 健志
(熊大・放)

最近のガンマカメラには、^{99m}Tc用コリメータとして範用、高感度、高分解能さらには超高分解能等のコリメータが製作されているが、空間分解能の良さと感度とは反比例の形となるので、臨床検査においては最も適したコリメータの選択が必要である。そこで、各コリメータについて空間分解能と計数密度の関係を求め、計数密度を各コリメータの感度を用いて「(放射能平面密度) × (撮影時間)」(mCi·min·cm⁻²)に変換し、これと空